

発行日 平成13年8月10日
 発行者 江別市生涯学習推進協議会
 編集 広報小委員会
 連絡先 江別市教育委員会生涯学習課
 (高砂町24・381-1062)

第1回生涯学習フォーラム

今日、物質的な豊かさの一方、子どもから大人まで心めぐつての様々な問題が現れています。複雑化した現代社会にあって、どうしたら私たちは心豊かに生きてゆけるの

「キレる社会の親子関係」

① 8/23 (木)

渡部 正行 氏

50年札幌市生まれ。精神科医。北大経済学部卒業後、東京でのサラリーマン生活を経て札幌医科大学へ入学、84年卒業。医師として活躍する一方、北海道新聞生活面に『心のそば』を連載している。

「遊ぶ育みの心とからだ」

② 8/30 (木)



安藤陽子 氏

43年北海道生まれ。第2大麻幼稚園園長。ドイツでシュタイナー教育を学び、芸術的幼児教育を取り入れた保育を実践している。

でしょうか。

第1回生涯学習フォーラムでは各界の専門家による5回シリーズの講演会と、講師が一堂に会してのシンポジウムを通して、このテーマに正面から向き合っていきます。講演会は大麻公民館を会場にいずれも午後6時30分から8時30分まで。入場無料。

こころの時代

を問う

④ 9/13 (木)

「精霊たちと音楽」



三上敏視 氏

53年愛知県生まれ。音楽家・雑誌編集者。先住民関連のイベントや気功関係のコーディネートを手がけている。関西気功協会理事。

⑤ 9/20 (木)

「学ぶこと・育つこと」



谷川幸雄 氏

37年北海道生まれ。大学教授。中学・高校の教員、道教委職員を経て大学教授に。スクールカウンセラー、生涯学習インストラクターの資格を持つ。

竹田津実 氏

の素顔

37年大分県に生まれる。63年岐阜大学農学部獣医学科を卒業後、清水町農業共済組合家畜診療所に勤務する。66年からキタキツネの生態調査を続け、72年からは傷ついた野生生物の保護、治療、リハビリの作業を始める。91年同共済組合を退職、フリーに。74年78年映画『キタキツネ物語』企画・動物監督。83年テレビ『オジロフシ』監督。動物愛護に関する書籍で「レディ・ガスコイン賞」を受賞するなど、海外での評価も高い。著書にエッセイ『森の王国』『のんべえ獣医の動物記 上・下』他写真集など多数。



お問い合わせ

教育委員会生涯学習課事業推進係
 ☎381-1062

シンポジウム

9月29日(土)、コミュニティセンター多目的ホールにて開催。

◎基調講演 13:20~15:00

演題 「動物の心、人の心」

講師 竹田津実氏

(写真家・獣医・エッセイスト)

◎パネルディスカッション 15:15~17:15

テーマ 「こころの時代を問う」

パネラー／渡部 正行 氏、安藤 陽子 氏

伏木田光夫 氏、三上 敏視 氏

コーディネーター／谷川 幸雄 氏

●定員 300名(託児あります)

●入場料 一般1000円／大学・高校生500円

入場券は市内各公民館・市民会館で発売中

私のパソコンライフ



犬塚秀一さん

広報活動

「広報担当をやらせてください。」4年前の大麻卓球スポーツ少年団後援友の会総会で、私はこう発言しました。当時、職場で情報処理の關係の仕事と兼務で受け持たされていた私は、

実はパソコンを使うのは二方手であり、嫌いでもありました。しかし、子どもが少年団にお世話になって2年目になっていたのです。私も何かお手伝いをしなければと思います、思い切つて発言したので。指導者の先生が、一人でニュースを毎月発行されるのは、見ていていつも大変だなあ感じていたし、何よりも「絵」を入れたニュースを子ども達に作ってあげたいと思つたからです。初めて私が手がけたニユ

ースでは、木のプラカードのような絵の中に字を入れてみました。字も絵に置き換えて貼り付けるのです。今では当たり前前に見かけるものですが、当時は一般の人はまだ誰もやつてなく、子ども達も喜んでくれたし、何より自分が驚いていました。

それからは、毎月毎号、もつと子ども達を喜ばしてやろうと、パソコンで絵を描いたリスキャナーを使つたり、インターネットで外国のイラストを入手したり、手を変え品を変えしているうちにアツという間に4年が過ぎてしまいました。パソコンは仕事ではなく、趣味で使うものです。目的があると誰でもすぐに上達します。

先日の友の会総会で、「私も広報のお手伝いをさせてください。」とK君のお母さんが発言されました。今は少しずつパソコンタッチをしているところですよ。

(大麻スポーツ振興会)

点字の世界もIT革命!?

前田 麻子さん

パソコンやインターネットは、すっかり一般にも普及し



野幌公民館 | IT講習会

ましたが、点字の世界でもパソコンが大きなウエイトを占めています。

「こんな私でも続けられるのだろうか。」と思いつながら点訳ボランティアを始めたのですが、パソコンを使えばワープロ感覚でも楽に作業が進められます。今ではすっかり生活の一部となり、読書とパソコン、インターネットという趣味を兼ねたボランティアになっています。

点訳作業を進めていくと読めない漢字(地名や人名)や新しい言葉、

地方独特の言い回し(例えば江別でいえば「コミセン」といった略称)などが出たり、中古を求めると、本体、プリンター、外付けのハードディスクなどで高額な費用を要しました。その頃今日のIT時代の到来は予想だにしませんでした。

生活に潤い

最近が高齢者も「パソコン」の誘いを受けます。指を動かすことは脳の老化を防ぐともなると言われています。指を動かすことは脳の老化を防ぐともなると言われています。指を動かすことは脳の老化を防ぐともなると言われています。



村橋 富さん

てくることがあります。そんな時に私はインターネットの検索機能を活用することが多くなりました。検索というところが難しく聞こえますが、「ヤフー」などのホームページ検索サイトに調べたい言葉を入れるだけで、簡単に見つかることも多いのです。辞書に出ていない言葉が検索できた時など、ちょっとうれしくなつてしまいます。時々おもしろいホームページに出会って、調べものから脱線してしまうこともありますが、。また、次にどんな本を点訳しようかと迷つた時は、ネット上のベストセラーリストや書評がとても役に立ちます。そこで自分が読みたい本を見

言われていますので、趣味の選択は良かったと思つています。昨今ではパソコンも安くなり、江別市情報図書館のパソコン講座や一般のパソコン教室も盛んになってきています。やる気があれば学び易い世の中になってきました。パソコンを習うのに、国が予算を計上したりして援助し「パソコンをやるう」のIT革命です。インターネットでメールを孫に、デジタルカメラで写真を撮り仲間にする。ホームページを開いて観光地の情報を



つけてしまうこともしばしばありますし、もちろん、気に入つたらその場で購入できるのも良いところです。

持込み歓迎

このコーナーでは皆様からの原稿をお待ちしております。今後予定しているテーマは「心」「ペット」「ボランティア」などです。また、4ページ目の「マイ・ブーム」のコーナーでは人に紹介したい本や映画、HPなどに関する投稿も歓迎しています。

江別日中友好の会

長谷川 亨(会長)

国家間の政治や外交を通じての国際交流も大切ですが、一方思想や信条の枠組みを越えての民間における草の根レベルで人間同士が理解を深め合うことは、より親密で友好的な交流であると思います。

私達「江別日中友好の会」は平成2年に結成されて以来、



大廟会民族衣装ショー

ずっと、民間による草の根レベルでの交流を進め友好の輪を広げて、今年で満10年を迎えることになりました。今まで行ってきた活動は、

会報「友誼」の発行(現在46号)、年間4回の例会を通じて中国文化やその他の情報を市民に提供する行事開催、また中国文化を理解するためのグループ活動としての中国文化研修旅行(今年で8回目)、

創立10周年を迎えて

中国語講座など多彩な活動を展開してきました。昨年は中国総領事館をはじめ、江別近郊の中国人留学生を中心とした市民交流「大廟会」をもちました。今年もまた発足10周年を記念しての「大廟会」を9月30日に予定して準備を進めているところで、その趣意は中国の文物や大衆文化を縁日風の出店で紹介し、日中友好の輪を広げようとするものです。

更に今年度は10周年記念として次のような事業を計画しております。

- ①会報「友誼」総集編の発行(1月予定)
- ②記念講演会(中国黒竜江大学の田忠魁教授を招聘、7月20日修了)
- ③中国文化交流会「大廟会」(9月30日・会場はコミュニティセンター)
- ④記念文化研修旅行(10月7日〜14日)「三國志の里・文化と自然を訪ねる旅」(予定)。

これらの活動を通して、私ども「江別日中友好の会」では互いの民族の文化を尊敬し



中国小学校訪問

合い、21世紀の新しい国際感覚を身につけ、今後ともさらに地道な草の根の交流を続け、前進させていきたいと考えております。

▼お問合せ 会長・長谷川亨さん ☎382-4582

青少年が起す事件が大きな社会問題になっているので、これに関する講座などの企画を検討すべきではないか。」(補助金の削減について)「50%の減額。市に対してどのような働きかけを行ったのか。」(同じく)「本間に必要な補助金であれば、当協議会

また、今年度は役員・理事の改選期のため、総会では会長・副会長・監事・事務局長の留任と、理事15名の推薦団体を決定しました。総会後各団体から推薦をいただいた新理事及び役員は左表のとおりです。

総会終わりました

去る5月19日市民会館21号室で、来賓に教育長を迎え、生涯学習推進協議会の平成13年度の総会が開催され、12年度の総括と13年度の事業計画等について審議を行いました。以下、主な質問・意見をご紹介します。

「事業計画について」「現在、青少年が起す事件が大きな社会問題になっているので、これに関する講座などの企画を検討すべきではないか。」

「以上のような質問・ご意見は、協議会の今後の運営のあり方に関わる問題として受け止め、今後理事会等で随時検討を行っていくことになりました。」

江別市生涯学習推進協議会 新役員・理事

- | | | |
|-----|-------|----------------|
| 会長 | 安宅 嘉美 | 江別市青少年のための市民会議 |
| 副会長 | 谷川 幸雄 | 北海道浅井学園大学 |
| 副会長 | 岸 信子 | 江別市文化協会 |
| 理事 | 知野 辰男 | 財江別市スポーツ振興財団 |
| 〃 | 内藤 健一 | 江別市自治会連絡協議会 |
| 〃 | 高野 順子 | 大麻スポーツ振興会 |
| 〃 | 奥谷 浩一 | 札幌学院大学 |
| 〃 | 齋藤 晶子 | 点字ろくの会 |
| 〃 | 丸山 英夫 | 江別市文化協会 |
| 〃 | 佐藤 安生 | 北陽美術協会 |
| 〃 | 柳原 秀樹 | 江別市民国際交流協会 |
| 〃 | 菊田美恵子 | 江別市老人クラブ連合会 |
| 〃 | 三井 房子 | 江別ぼけ老人を支える会 |
| 〃 | 小西 豊 | 野幌商店街振興組合 |
| 〃 | 澤口 智視 | 江別市PTA連合会 |
| 〃 | 笹山 和子 | 江別市婦人団体協議会 |
| 〃 | 森 陵一 | 江別青年会議所 |
| 〃 | 古川 紀夫 | 北海道情報技術研究所 |
| 監事 | 安達 章 | 江別市社会福祉協議会 |
| 〃 | 一字 宏 | 江別芸能赤十字奉仕団 |

市内



市内学習ポイント⑱

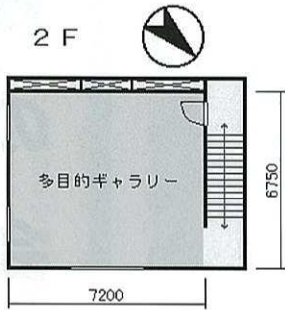
ソクラテスカフェ・ギャラリー

むかしむかし銀行だった

古い赤レンガの館が
ソクラテスカフェ・ギャラリーとして
輝きはじめました・・・

哲学の父ソクラテスにちなんで付けられた店名には、生涯一冊の本も書かずに街角に立ち、人々との対話の中で言葉の力を説いていた彼のように、「この場所で話し、聴き、共に考えましょう」というオーナーの想いが込められています。

毎月第2木曜日
午前10時から行われている教育相談では、専門家を困らせて若いお母さん達や地域の人達が、子育てについて語り合っています。



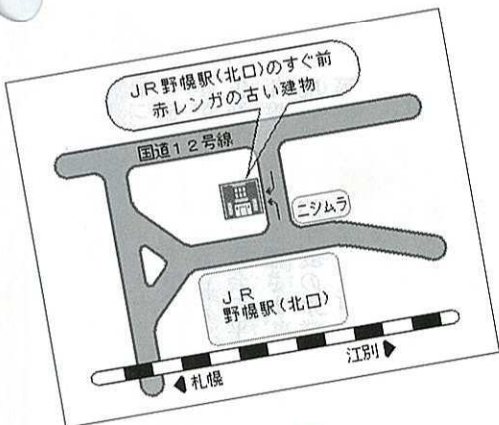
また、2階は多目的ギャラリーとして、絵画・陶芸・ガラス工芸などの展示・販売や、ちょっとした演奏会に利用できるようになっています。

野幌町53-20 JR野幌駅北口から徒歩2分

☎011-391-7355

OPEN 午前10時～午後8時 不定休

URL <http://www6.ocn.ne.jp/~socrate/>



夏の訪れを告げる「えべつやきもの市」も終わり夏本番といった時期であるが、今年は涼しい夏なのか。暑い夏はグビッとビールがうまい！最近の夏はどこか変だが、今年こそは夏らしい夏になってほしい。(森)

初参加の私にとつては、戸惑いと不安のスタートとなりましたが、この機会を起りに、マイペースでも学べるものを見つけた第一歩になれば・・・と思っています。(齋藤)

編集後記

なった「生きること学ぶこと No.6」は市内各公民館で無料配布中です。

マイ・ブーム

「希望の国のエクソダス」

村上 龍 著 文芸春秋



森 陵一さん

「14歳の日本人少年がアフガンゲリラ参加」この報道をきっかけに全国80万人の中学生が不登校になる。やがて彼らは、インターネットで連携してさまざまなネットビジネスを開始する。それで得た資金でヘッジファンドを操りアジア通貨危機を演出し巨万の富を手にする事となった。さらには北海道に移住して独立国家の建設を目指す...という本書のあらすじだけを見れば荒唐無稽な空想小説と思われるかもしれない。しかし、著者が自ら「金融・経済・教育・ネットコミュニケーションに関する約三年に及ぶ取材がすべてこの作品に活かされています」と語っているように、ストーリーの背景となる現在の我が国の社会経済の姿が非常にリアリティをもって描かれている。

ブロードバンドによるネット通信、エコマネー、自然エネルギーの活用、社会企業家、といった最新のキーワードが随所にちりばめられた本書は近未来シミュレーション小説としても出色の出来となっている。

本書のストーリーは概ね2002年から2006年頃までの日本を舞台として展開していくのであるが、ここで描かれている日本の姿を、絵空事あるいは超悲観的シナリオとして一蹴してしまえないところが、この小説の怖いところである。

なお、私がこの小説に惹かれたのは、主人公達が最後に移住する地が北海道の「野幌」(のほろ)という架空の都市であることもあるだろう。私たちの住む江別市もこのような変貌が遂げられるようになることを密かに望むものである。

好評 市内学習ポイントガイド

「生きること学ぶことNo.6」

江別市生涯学習推進協議会発行の「生きること学ぶこと」江別市生涯学習ガイドブックも、今回で6冊目となりました。これまで、団体・指導者・イベントなどの情報を掲載していましたが、No.6では市内の生涯学習施設を特集しています。

- オールカラー
- 持ち運びに便利な A5サイズ
- 民間施設も充実
- スポーツにも文化活動にも

